

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	岩下 好美 【ジェンダー学際研究専攻 平成21年度生】	<p>本論文では、ひとり親の父家庭に注目して、親アイデンティティの形成と職場・家庭の二重役割遂行がどのように行なわれているのかを検討すること、更に父親がどのようなサポートネットワークを築いているかを明らかにすることを主な目的としている。筆者は Burke & Stets の社会学的アイデンティティ理論を援用して、配偶者と生別れあるいは死別した 10 名の父親から収集した半構造化面接データを継続的比較法により分析した。主な結果として、ひとり親になった経緯の違いに関係なく、父親が子育てをするようになり子どもへのポジティブな気持ちが一層深まったこと、職場では支援をしてくれる雰囲気が存在する場合が多いこと、父親自身のネットワークから何らかのサポートを受けていることが明らかになった。同時に対象者の多くの父親は子育てや家事に自信を持ってないことなどが指摘された。また、筆者はひとり親の父アイデンティティは社会規範、家庭と職場における資源、サポートネットワークから形成されると結論付けている。</p> <p>本論文は、社会学的なアイデンティティ理論を援用して、研究蓄積の少ないひとり親の父の家庭役割と職場役割の関係性を明らかにしたこと、データ収集が困難なひとり親の父親 10 名から詳細なインタビューデータを収集できたこと、本研究結果から教育・職場・政策への貴重なインプリケーションを導き出したことなどに関して高い評価を得た。</p> <p>審査委員会は、平成 25 年 11 月 27 日、平成 26 年 1 月 23 日、2 月 24 日の 3 回開催された。3 回に渡る審査委員会では、主要概念の整理、父子・母子家庭の差異の記述、父親アイデンティティとジェンダーアイデンティティの違いの明確化、研究の限界としてサンプルの特殊性などについての加筆・配慮が必要であるというコメント・提案があった。委員会の指摘に基づいて書き直され、審査委員全員のコメントに対応した結果、修正後の論文にはかなりの改善が認められた。公开发表会は平成 26 年 3 月 4 日に行われ、発表は非常によく整理されており、フロアからの質問やコメントに対して申請者は適切に応答した。審査委員会は、本論文が、本学大学院人間文化創成科学研究科の博士の学位の水準に達していることを認め、合格とし、博士（社会科学）Ph.D. in Social Sciences の学位を授与することを全員一致で決定した。</p>
論文題目	ひとり親の父の役割遂行における資源と葛藤—アイデンティティ理論のアプローチから—	
審査委員	(主査) 教授 石井クンツ昌子	
	教授 小玉亮子	
	教授 平岡公一	
	准教授 青木紀久代	
	教授 榊原洋一	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・<input checked="" type="checkbox"/>否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="checkbox"/>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第 24 条第 4 項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	

